

---

# AEUでモノ拾い

睡眠欲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A E Uでモノ拾い

### 【Nコード】

N 8 0 7 8 Y

### 【作者名】

睡眠欲

### 【あらすじ】

なんか殺されて転生したけどチートと言えるか微妙な能力をもらって転生させられた先はA E U!?

それも未来の不死身さんであるコーラさん家のお隣さん?!

さて、俺はこれからどうやって生き抜いていくんだ(汗)

これからいろんなコネを使って何が何でも生き残ってやる!

さあ、どんな相手でもかかってこい!

まあ自分より弱い相手限定ですけどね(泣)

睡眠欲の第二弾、あまり期待はしないでね

出来れば専用機だしたいな  
さてさて、俺は生き残る事が出来るか？

## はじめに（前書き）

なのはの世界に武力介入の区切りがつかないなら投稿するといいましたが  
何時区切りがつか分らないのでもう投稿しちやいました。m（

——）m<

## 始めに

西暦2307年、人類は未だ争いを止める事が出来なかった。  
この連鎖を止めるべくソレスタルビーングが起ちあがる。

だがこの話はそれから28年前から始まる、一人の転生者の話である。

本当にすいません、なのはの世界で武力介入の区切りがつか分らないので書き始めました。  
言い訳する気はありません。

批判でも非難でも言って頂いて結構です。  
しかし自分は書き続けると考えていきますので両方書いていきたい  
と思っております。

では、書かせていただきます。



あ、俺死んじゃってるよ(前書き)

特にいう事はありません。  
批判でもなんでもどうぞ。

あ、俺死んじやってるよ

SIDE???

ん、俺の名前？

つうか聞いてんのは誰よ？

一応言っとく。

俺の名は小田<sup>おだ</sup>光孝<sup>みつたか</sup>25歳、独身。

趣味は、まあ俗にいうガンオタだな。

ガンプラ作ったりしてる何てことない東京都の足立区にあるマンション在住の社会人。

普通に会社勤めているサラリーマン。まあ中間管理職だから色々あるんだがまあそこそこいい感じ。

今日は久しぶりの休日。一日中寝ていたい感じだ、何にもする気がしない。

ガンダムのDVDも大抵のは見終わってるし最近は〇〇系の機体を作ってる。

特に外伝系の機体が好きだな。

ストックも少なくなってきたるしなんか買つか。

のそのそと立ち上がりクローゼットにある服を適当に来て出かける。ドアを開け、エレベーターのボタンを押し下に降りマンションを出る。

道に出てある程度あるくと行きつけのガンプラがある店。

その中に入りプラモがある所へ。

「お、今日についてんじゃん、イナクトデモカラーに1・5ガンダム、加えてアストレアF2。買っとくか」

レジに持っていき代金を支払い、帰路につく。

「イナクトとアストレアはそのまま組んで合わせ目消して、1・5は機体の色変えてタイプダークにするか」

買った帰りに他にも色々考えていたら

目の前に爺さんが車に引かれそうな光景が……………?!

「間に合ええ！」

だが無情にも爺さんは車に引かれた。

間に合わなかった……………!

「な、なな、なんで爺さんが生きてんだ……………?!?!?!」

「見られてしまったのう……………どうす……………の……………本々……………

……………」

その言葉を発した瞬間俺の意識は潰えた。

SIDE 光孝

「お・、起き・・・・。おい、起きるン・・・・。おい、お・い、起き  
んのう」

声が聞こえる、どうかで聞いたような。

「……確か爺さんの？爺さんはさっき目の前で死んだ筈！いや目の前でなんか喋ってたような？」

まさか？！俺は意識を覚ました。目の前にはcrazyな光景が……だつてさっきの爺さんが目の前にいて、場所は真っ白の大地に水が張っていて空の景色が映つてるんだぜ。

ならここはd「目を覚ました様じゃの。」

「は？あんた誰？いや、Who are you？」

「ん〜一言でいうならあ、世界の管理人じゃの。あ、二言じゃつた。」

「……腕が良い精神科医紹介してあげますよ、大丈夫！保証しますから！」

「真面目に言われるとキツイのお……まあそこは放っておいて口調を元に戻したらどうじゃ？」

「へいへい、口調が見抜けるならある程度正気なようだな。で、ここ何処？」

「ん〜人が生まれる前の場所じゃ」

「あ、そう。でなんで俺がここにいんの？もう生まれて25年経ってるんですが。」

「儂の姿を見たからじゃ。でも今回は儂が悪いのう、そうじゃ、転生させてやるう！」

「ふうん、で？」

「反応薄いのお。お主の好きな○○の世界に送ってやるうかの？」

「え、マジで?!」

「でも他の管理人の様にそこまで強い権限がないのじゃ、だから儂があげられるのは微妙なチート位かのう」

「じゃあア・バオア・クーの時のアムロレイ並みのニュータイプ能力で」

「無理じゃつて……」

「本当に??」

「本当じゃ!」

「本当に本当に??？」

「何回言ったらわかるんじゃ、無理だつつつの！」

「あ、キレた？」

「流石にキレるわ！何回も言ってるじゃろ！無理だつて！」

「いや、努力させるのが好きだからワザと与えないっていうパターンかと」

「そうか、そう考えてたか。まあ確かにそういう奴もいるの。」

「じゃあ普通にもらいますわ。で、使える能力は？」

「腹立つ奴じゃのーまあいいわ、使える能力全部出すから選べ！しかし4つまでじゃ」

「ハイハイ」

目の前にI p O dみたいなものに文字が表示されている。

4つしか使えないのならばちゃんと考えないと、つつか4つで縁起悪いな。

「縁起が悪いなら3つにしようかの？」

「いや、結構」

使える能力はつと、えつと何々。

身体能力系

イノベイド並みの操縦技能    ロックオン並みの操縦技能    ミハエル並みの操縦技能

ヨハン並みの操縦技能    ジョシユア並みの操縦技能    ミン中尉並みの操縦技能

スチュアート並みの操縦技能    ハワード並みの操縦技能    ダリル並みの操縦技能

アレハンドロ並みの操縦技能    アラツカ並みの操縦技能    バラツクジニン並みの操縦技能

ブリング並みの操縦技能 デヴァイン並みの操縦技能 ハーキュリ  
ー並みの操縦技能

セルゲイ並みの操縦技能 アニユー並みの操縦技能 紅龍並みの身  
体能力

ネーナ並みの操縦技能 リジエネ並みの身体能力 テイエリア並  
みの操縦技能

サーシエス並みの操縦技能 ヒリング並みの操縦技能 リヴァイブ  
並みの操縦技能

リボンス並みの操縦技能 マレーネ並みの操縦技能 ルイード並  
みの操縦技能

グラーブ並みの操縦技能 ビサイド並みの操縦技能 アンドレイ並  
みの操縦技能

グラハム並みの操縦技能 デカルト並みの操縦技能

#### 技術系

イオリア並みの頭脳 エイフマン並みの頭脳 アニユー並みの頭脳  
ルイード並みの頭脳

ラグナ並みの頭脳 モレノ並みの技術 アーサーグッドマン並みの  
頭脳

ホーマーカタギリ並みの頭脳 リージェジャン並みの頭脳 アーバ  
リント並みの頭脳

## キム並みの頭脳

### 特殊能力系

イノベイド並みの脳量子波    デカルト並みの脳量子波

……多いな

「どれにしようかな……じゃあサーシエス並みの操縦技能一つ  
お願いします」

「それは無理じゃ、触ってみい。」

触ったらなんか禁止マークが出てきた。

「ほれ、見たか。今の儂には無理なんじゃ、もう少し権限を持たな  
いと無理じゃ。」

「了解……」

何が使えんだよ、あんな死亡フラグ満載な所に行くならある程度の  
能力は必要だな。

なら操縦系はバランスが取れている方がいいな。

「ならグラーベ並みの操縦技能一つ」

「これならイケるの」

次は頭脳系だな特殊能力は欲しいな。

待て、よく考えたら生まれたこの目が光るって怖いな。

それに自分で制御できるかは分からないし出来るだけ普通な感じに  
しよう。

なら、「モレノ並みの技術とアニュー並みの頭脳、後グッドマン並  
みの頭脳を頼む」

「ほう、上手いこと決定できた様じゃの、儂からの餞別じゃこのパ  
ソコンを持ってけ。」

「は？何これ？」

「前世のネットにつながるパソコンじゃ。好きに使え。」



## 六歳までの出来事

SIDEアリング・ランダル・ウィキンソン

どうも、こんにちは。六歳児の光孝です、SIDEのところが違ってます？

ははは、それはですね

回想

「オギャアアアアアア（何これ、どうなってんのう！？）」

「お、生まれたのか！」

「可愛い男の子ですよ。」

「おお、私の息子かあ。可愛いなあ」

「フフフフ、私たちの《……》でしょ」

は？どうなってんの、これ？ねえ。

目の前にハイネ・ヴェステンウルスらしき男性と、俺を抱き抱える  
フレイ・アルスターらしき女性がいる光景、珍百景に登録なるか？  
なんて現実逃避はさておき、俺は25歳の社会人だったよな。神様  
あんたこれ、憑依転生ですよ。俺は直接ガンダム00の世界に送  
られると思ってたよ。

<馬鹿を言え、俺にそんなことできるわけなからう。憑依転生は中  
の人格殺して別の魂入れるから後味が悪いわ。だからその世界の人  
物としたに決まっておろう。>

<マジデ？ねえ、馬鹿なの、死にたいの??>

<ふっ、脅したって俺がいる神界にはこれん筈。それからできない  
わけではない。>

<じゃあ今から行くよ、首洗って待っとけよ？>

<何故最後が疑問形なんじゃ？にしても実際に来れてないじゃろ。>

<ちつ、ここまで言っても動じないとは・・・やるなア>  
<あたりまえじゃ！こんな僕でも神なんじゃ。>  
<はいはい、神（笑）さん、聞きたいことはもうわかった、んじゃ  
（\$・・・）ノ >  
<あ、ちょтт>

はあ、なんかもう疲れた気が・・・

「私たちの子、名前、決めた？」

「決めたよ、名前はアリング・ランダル。」

「いい名前ね」

「だろっ、さつすが俺！。この子は俺をも超えるセンスを持つてる  
と思う！なんせ君と俺の子だからな・・・。」

「はいはい、よしよしアリング、私がママであれがパパよ」

「え、無視？！それと、あれって言うなよお・・・（泣）」

・・・俺、頑張って生きよう。

にしても、なんかキヤラがそのまんまな気がするな。

もう一度の人生つてのを再確認したなあ。

なんか寝むたくなтт・・・

回想終了

ん？なんか最後の終わりが変？

仕方がないだろ、赤ん坊なんだからすぐ寝てしまったんだし。

で現在に俺は家のベッドの中で部屋を見ている。

壁には世界地図が張っていて前世と大陸の形は変わってはいないが  
四色に分けられている。南北のアメリカと日本とオーストラリアが  
青色。

東南アジアと中国とロシアの右半分が赤色。ヨーロッパとグリーン  
ランド、ロシアの残りが緑色。残りのアフリカと中東辺りが全部灰

色。

むむむ、本当に〇〇の世界ですな。

前にある壁と、右にある壁には窓が一つずつ。カーテンが左右についており外の街並みが見える。

左にある壁には真つ白な机がありその上には何かの勲章と一枚の写真。フレイ（仮）とハイネ（仮）のデートの最中らしき写真がある。後ろの壁には何があるかはまだ見てない。首が据わってないから。それと忘れていたが神様からのチート？まだもらってない。

<今すぐおくるつかのお？>

<じゃあお願い。>

<決断早！まあ良いわい。ほれ！>

<頭の中に医療技術が入って来たな。・・・他は？>

<何を言っておる、アニニューとグッドマン並の頭脳は頭脳で知識ではない。操縦技能は体に覚えさせたから実感するのはもつと後かもしれん。>

<そう、なんか期待して損した。でもイノベイドの治療方法まであるから便利だな。>

<対象は居るのかの？>

<居ないと思う。>

<まあ頑張れ>

<へいへい。あ、あとパソコンは？>

<めんどいからお主の頭が前世に繋がられるようにしといたぞい。>

<は？！おい、説明 please。>

<つまり脳量子波で繋がられるようにしただけじゃ。>

<つまり、イノベイター？！！>

<まあそういうことじゃ。ちなみに目の光はオン・オフできるように頭の中で設定できるようにしといたぞい>

<有難い、言われた瞬間不気味な子として捨てられるかもしれないと思っただぞ！>

< 僕は愚痴聞きたくないんでな、僕からのほんの選別じゃ、六歳の時になるようキンクリさせるぞい、礼はいらんぞ。ほんじゃの！>  
あ、待てよ。おい！あ、繋がんねえ・・・

回想終了

それまでの期間は普通に活発な感じで過ごしていたらしく、記憶の中の俺によると、幼稚園でコーラサワーと出会っており、仲がよく二人でイタズラやヤンチャをしていたらしい。  
炭酸よ、子供の頃から変わらないのか、性格・・・。

今は西暦2285年か。今年は何かあったけ？俺は前世のネットに脳量子波を飛ばす。

え〜と、何々。今までの出来事は、2270年に太陽光発電紛争が勃発。

2273年に大使生誕、2281年にスメラギさん生誕、2283年にマリナさん・ロックオン兄弟生誕か。

今年は大きな特になんもないな。

前世では色々環境問題やらなんやかんやあったが今は特にないな。

そして現在俺は家の二階でベッドの上でゴロンとしている。

家族構成は、父はハイネ・ヴェステンフルス・ウイキンソン、母はフレイ・アルスター・ウイキンソン

・・・そのまんまだな。

父方の祖父母と母方の祖父母はまだ知らない。

今の家庭を構成している人を育てた人たちだ、もっと面白そうな人達だろうな。

何時か会ってみたい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8078y/>

---

AEUでモノ拾い

2011年12月4日00時51分発行